

2024年 8月15日

非血縁者間骨髄／末梢血幹細胞採取認定施設 採取責任医師 各位
日本造血・免疫細胞療法学会 移植認定診療科責任医師 各位

(公財)日本骨髄バンク

災害等により「骨髄バンク中央事務局(東京・千代田区)が使用不可になった場合」 の対応について

日頃よりバンク事業へご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

近年、異常気象による豪雨や、各地での大規模地震等多発により甚大な被害が発生しております。今後、首都直下型地震等の発生も懸念されるにあたり、中央事務局機能不全時の際には下記の通りご対応いただきたく、予めご連絡いたします。

◎当法人より「骨髄バンク中央事務局業務不能」のメール連絡が届きます。

近日中に移植/採取が予定されている場合は、当運用を開始してください。

<近日中に移植/採取が予定されているケース>

1. 両施設間で連絡を取り合い、
採取の可否を決定してください。

- ・事前に、互いに繋がりやすい緊急連絡先を交換しておいてください。
- ・JMDPは両施設で出した結論を追認しますので、至急の報告は不要です。

2. 施設間で連絡が取れない場合は
採取施設が延期/中止を判断して
ください。

- ・判断にあたり、報道等でも移植施設地域の状況を確認ください。

<採取延期/中止 判断の目安>

- ① 施設は無事でも交通手段がなく、明らかにプロダクトの運搬が不可、かつ採取施設での凍結も不可能
※通常は採取施設での凍結はしませんが、緊急時の例外対応として考慮してください。
- ② 採取施設/移植施設のどちらかが明らかに壊滅的な被害を受け、緊急転院も不可能
- ③ 採取施設が採取前日までにドナーと連絡が取れない
※緊急時は、ドナーが直接採取施設に連絡をする場合あり
- ④ 採取開始の1時間前までに移植施設と連絡が取れない